

SYSTEM [一連のコマンド] ;

機能 :

SYSTEM は対話型セッションあるいはバッチジョブを終わることなしに、オペレーティング・システムと相互に行き来することが出来ます。

使用法 :

バッチモードでは、SYSTEM コマンドは引用符で括ったコマンドを実行します。これはファイルを削除したり、TSP ジョブで作成したファイル进行处理するプログラムを実行する場合に役立ちます。SYSTEM コマンドで操作する前に、必ず CLOSE ファイルして下さい。

対話モードでは、SYSTEM には引数はなく、単に次のメッセージが出るだけです、

```
Enter system commands. Type EXIT or CONTINUE to resume TSP session.  
$ (or some other system prompt)
```

システムの促進記号が表れたら、ファイルを作ったり修正したり出来ますし、友人に MAIL を送ったり、普段しているほとんどのことが出来ます。好きなだけコマンドを入力し続けても構いません。

```
$ EXIT
```

によって、離れた対話型セッションを中断することなしに再び続けることが出来ます。この機能には多くの使い方があります。最もよく知られたことの一つは、セッション中に作ったアウトプットファイルを、プログラムを止めることなく調べることが出来ることです。このように使うためには、TERM あるいは OUTPUT コマンドを入力してファイルをクローズする必要があります。

VAX/VMS ユーザに対するテクニカル・ノート :

いくつかの VMS コマンドが効かないように見える場合があります : 一つの例は、現在のディレクトリーを変える SET DEFAULT コマンドです。理由は、直接 VMS にコマンドを出しているように見えますが実際は違うためです。TSP は依然として実行中です。TSP は "\$" をプリントし、タイプしたコマンドを読みます ; コマンドは次に VMS へ付属のサブプロセスとして送られます。親プロセス (TSP) が実行中に環境設定を修正するようなことはサブプロセスには許されていないことがあります。この『欠陥』は実際は不幸に見えて実は有難いものです : SYSTEM コマンドの後でコンピュータですぐに別の仕事をし、TSP をまだ実行中であることを忘れてしまうことがあります。時として SET DEFAULT コマンド (なぜこれが動かないんだ!) のようなものは、TSP でのまだ終わっていない仕事を思い出させてくれます。ともかく、CONTINUE とタイプするとすぐにこれが問題の原因かどうかわかります。